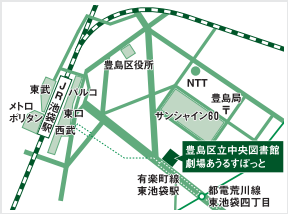
豊島区立中央図書館報

豊島区

図書館通信

第23号
季刊（冬）
2012

発　行●豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四―五―二
ライズアリーナビル四階・五階　〒一七〇―八四四二
電　話●〇三―三九八三―七八六一
FAX●〇三―三九八三―九九〇四
ホームページ●http://www.library.toshima.tokyo.jp
発行日●平成24年1月



トピックス

●巻頭言　とげぬき地蔵尊・曹洞宗高岩寺住職　来馬 明規・・・1ページ
●図書館と私　中央図書館運営専門員　佐藤 真紀・・・2ページ
●ザ・レファレンス　郷土資料館学芸員　秋山 伸一・・・2ページ
●生涯の一冊　2011年度図書館経営協議会委員　室井 茜・・・2ページ
●二人の「明治ルネッサンス人」　豊島区図書館専門研究員　水谷 千尋・・・3ページ
●あうるすぽっと講談ライブ『講談のハナシ』・・・・・3ページ
●図書館イベント情報・図書館カレンダー・・・・・・・4ページ

とげぬき地蔵尊・曹洞宗高岩寺住職
来馬（くるま）　明規（めいき）

「一行の価値」を思い知る

学生の頃、本を求め、大汗をかいて本郷や神保町を歩き回り、図書館の書庫を徘徊した日々があった。今では電子図書館などから様々な資料が手に入り、筆者も情報端末の前で過ごす時間が長い。しかし、師父から学んだ昔ながらの「本の作法」は、今でも大切にしている。

筆者の師父は禅僧でありながら英文学研究者でもあった。大学院では十四世紀の古い英詩の韻律を丹念に研究し、英国の図書館まで行ってまとめた「British Museum MS Cotton Nero A.xにおける音声と綴字について」は学位論文となった。現在*CiNiiから全文を取得できるが、まるで6年前に死去した師父の「電子墓標」のようでもある。

師父は大辞典などの「厚い本」を好み、良書を見抜く心眼を備えていたようだ。「一行でも良いことが書いてあると思ったら、その一冊の本を求めなさい。」が口癖。「本は通読にとらわれるな。入手困難でも、分厚く重たくても、たった一行の真実のためにためらわず渉猟せよ。手元に置けば他の行の重要性に後から気がつくこともある。」というほどの意味だろうか。それが冒頭の話に繋がっている。

筆者の現在のテーマは医学と仏教の両方に通じる「禁煙」。江戸時代に漢文で書かれた「祖師の禁煙の教え」に興味を持ち、医学研究には不要だった諸橋大漢和辞典も揃え、無縁だった文学部の図書館にも通い、電子資料も原本で裏づけを取るようにした。おかげで大型本と資料の山に囲まれて毎日を過ごしている。

師父が「一行の価値」を求めて揃えたと思われる蔵書や経典も、「別の一行」が現在の筆者の研究に役だっている。数十年後に筆者が利用することを予測していたのだろうか。

「真実の一行」に出会うために、入手が難しい本を求め、遠くの図書館の高い書棚に登る気持ちを大切にしたい。以前は「一行」の意味がよくわからなかったが、今となっては重く大切な箴言（しんげん）と感じ取れる。

*CiNii：国立情報学研究所が運営する学術論文や図書・雑誌などのデータベース。

昭和62年日本医大卒。医博・内科・循環器・禁煙指導専門医。東医歯大、東大医科研、理研などを経て平成17年より現職。近著に『祖師に学ぶ禁煙の教え』（仏教タイムス社　千葉・来馬共著）。

新航路【21】

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、東日本大震災と原発事故という大変大きな災害が発生し、今もなお私たちの生活に様々な影響を及ぼしています。今年こそ、良い年にしたいものです。

さて、今年は豊島区が誕生して80年を迎えます。昭和7（1932）年10月、東京市郡合併により近郊82カ町村が東京市に編入され、新たに20区が設けられた際に誕生しました。豊島区は、それまで北豊島郡下にあった巣鴨町・西巣鴨町・長崎町・高田町の4つの町が統合されたもので、以降、今日までその区域に大きな変化はありません。そして区名については、4町協議の結果、北豊島郡がなくなることから、この郡の中心にあたるこの区に、その由緒ある名前を残すことが決められ、「豊島区」が誕生しました。

図書館にある様々な資料から80年前を調べてみると、人口は26万1千人で現在とほぼ同じです。大きく違うのが1世帯当たりの人数です。当時は約4.7人ですが、現在は約1.8人です。核家族化が非常に進んだことが分かります。また、駅の1日平均乗車・降車人員を見ると目白駅が2万5千人、池袋駅は1万6千人で何と目白駅の方が多いのです。現在の状況からは考えられません。う～ん、このなぞはどこにあるのでしょうか？ 図書館には郷土資料コーナーがあります。自分の住んでいる街の事について、調べてみませんか。きっとおもしろいことが見つかるはずです。

今年も生活の中に図書館を入れて、心豊かな1年にしましょう。

豊島区立図書館をどうぞよろしくお願いいたします。

Current & Encounter

『西田幾多郎という人』

豊島区図書館行政政策顧問　粕谷　一希

かつて史家鈴木成高氏は私にこう語ったことがある。

――京都の河原町の雑踏を歩いているとき、バッタリ西田さんに出会った。すると西田さんは私を呼び止め、おもむろに懐から一冊の洋書を引き出した。クリストファ・ドーソンの書物である。「デモクラシーとは万人のための貴族主義であらねばならない」というんだね、いや感激したよ、と感に耐えた表情で鈴木さんに語ったという。

この言葉を私も好きである。西田さんが語ったのは昭和十年代、日支事変のころ。それから七十年経っているが、言葉は古くなっていない。民主主義についても、さまざまな批判が起っている。ポピュリズムなど最大のものだろう。しかし、C・ドーソンの言葉は深く重い。万人が精神の貴族主義を志さなければ民主主義も危ない、という警告を含んでいる。

西田幾多郎については戦後さまざまな批判と悪口が出た。難解だ、堂々めぐりだ、結局右翼に屈したのだ、等、田中美知太郎から大宅壮一まで反西田であった。しかし、反哲学の結果、今日の軽薄な日本がある。西田さんは昭和二十年六月、敗戦直前に亡くなった。死人に口はないが、その真意は先のC・ドーソンの話からでも類推できるだろう。

鈴木成高さんは高知出身、三高・京大で西洋史を講じた。名講義だったという。「世界史的立場と日本」という『中央公論』の大座談会に出席したため、戦後、京大を追われた。そして高坂・西谷氏のように京大に戻らなかった。弘文堂や創文社の顧問をしながら東海大・早稲田大学で教えた。おかげで私なども創文社に行っては話を伺った。とくに鈴木さんの『現代史講座』が面白かったからである。アテネ文庫の創刊の辞（鈴木成高の文）に「生活は貧しく志は高く」という表現がある。

戦後の日本はその逆を歩んでしまったのである。

生涯の一冊（22）

『中村江里子の毎日のパリ』
中村江里子著
発行：KK ベストセラーズ

2011年度図書館経営協議会委員
室井（むろい）　茜（あかね）
東京大学大学院人文社会系研究科博士課程において17世紀フランスのモラリスト文学および思想を研究。2011年春には司書資格取得。

「パリへのいざない」

パリのシャルル・ド・ゴール空港に降り立つと、ふわっと「パリの香り」が漂ってくる。私は先日息子と共に、実に10年ぶりにパリに行った。パリは、私が1年間留学生活を送った地だ。この10年で私を取り巻く環境は大きく変わったが、この「パリの香り」だけは以前と全く変わっていなかった。そのことに安心し、私は一気に10年前にタイムスリップしてしまった。

『中村江里子の毎日のパリ』も、そんな「パリの香り」を運んでくれる本だ。読むと、不思議なことに、私がパリで過ごした日々が鮮やかによみがえってくる。楽しかったこと、おいしかったもの、驚いたこと、つらかったことが走馬灯のように頭を巡り、中村さんの言葉一つ一つに、「うん、うん」とうなずいてしまう。

中村江里子さんは、元アナウンサーで、現在はフランス人と結婚し、二女一男の母としてパリで生活している。この本は中村さんが二人目妊娠中の日記であり、なじみのレストランや界隈の紹介に加え、フランスで生活することの魅力と難しさや、肉親への想いが綴られている。またワーキングマザーとしての葛藤やフランスの育児事情について語られているのも興味深い。

中村さんというと、パリで優雅に暮らしているイメージがあったが、この本には、日本人として、妻として、母としての、人間味あふれる複雑な心の動きが表れている。そして様々な経験を経た末に「江里子スタイル」を確立している姿はとても魅力的だ。中村さんは「皆さんのイメージされている『パリの中村江里子の生活』とは、かけ離れていて、がっかりされてしまうかもしれませんが…」と綴っているが、むしろ私は、日々闘いながら自分に合うものをチョイスして自然体であろうとする彼女の姿勢のうちに、確固たる自信と凛々しさを見、憧れてしまう。

私の息子は、お気に入りのサルのぬいぐるみをパリに連れていった。そのぬいぐるみに、ホテルの部屋のイチゴのような香りがしみついてしまい、不思議なことに今でも残っている。消えてしまったかと思うと、またいつしか香りが強くなる。息子はその香りを、とても愛おしそうに享受している。おそらくパリに思いを馳せ、またいつかパリへ、と夢見ているに違いない。「パリの香り」は人を魅惑してやまない。

図書館と私⑩

中央図書館運営専門員
佐藤　真紀

『モチモチの木』の思い出

私の記憶に残っている読み聞かせ。それは小学校1年生の時に担任の先生が読んでくれた『モチモチの木』である。

一人でおしっこにもいけない弱虫な主人公豆太が、祖父のために一人で夜の道を走り医者を連れて戻ってくる姿に、子どもの頃の自分は気持ちを重ね、力を得ていたのだろう。

この本を読んでくれた先生は、小学校の入学式が終わった後に、教室で子どもの名前を一人ずつ呼び、その子が前に出ると、話しかけながら体を高く持ち上げてくれた。自分の名前が呼ばれるまで「同じように持ち上げてもらえればいいな。」とドキドキしながら机に座っていて、とうとう持ち上げてもらった時のうれしくて、ほこらしい気持ち。この大好きな先生との思い出は、『モチモチの木』と結びついて私の心に残っている。そして今でも迷った時に、先生の温かい声を思い出し、豆太のように一歩前に踏み出す勇気を与えてくれるかけがえのない1冊となっている。

大人になり、あの頃は想像もしていなかった図書館という職場で、今度は自分が読み聞かせをする立場になった。教師とは違い、私がおはなし会や学校で、その子ども達と顔を合わせるのは、もしかすると1度きりかもしれない。しかし、私にとって『モチモチの木』がそうであったように、本とそれを読んでくれた大人との思い出が、その子を元気づけ支えてくれるような、そんな1冊と出会ってほしいと願いながら読み聞かせを行っている。

先生は私が10代のうちにお亡くなりになり、今の姿を見てもらうことも、お礼を言うこともできない。でも、私は先生からもらった温かい気持ちと、本を通じて共有した楽しい時間を、今度は子ども達に伝えていきたいと考えている。児童担当の仕事は10年でやっと1人前と言われている。私自身まだまだ半人前で、日々勉強に追われているが、それでも本を選ぶ際に自分自身に問い続けていることがある。「その本はどうしても紹介したい1冊ですか?」と。

ザ・レファレンス
―豊島区の歴史・文化がわかる本⑧―

ご案内：秋山　伸一（あきやましんいち）　郷土資料館　学芸員

「子どものころ豊島区で空襲にあったのですが、それはいつでしょう…?」

表題に掲げた質問は、郷土資料館への来館者、あるいはお電話で時々いただくものです。多くは70歳代前半の方からと思われるお問い合わせで、ご自身に空襲体験はあるものの、まだ幼く正確な日時を覚えていない、あるいは親から聞いたものの忘れてしまったため、確認をしておきたいということのようです。

質問にお答えします。それは昭和20（1945）年4月13日の深夜から14日の未明にかけてです（以下、この空襲のことをここでは「4.13空襲」とします）。一般に東京空襲といった場合、同年3月10日のいわゆる「東京大空襲」がよく知られています。しかしながら、「東京大空襲」はおもに東京の下町地域が甚大な被害を受け、豊島区やその周辺地域の被害は比較的軽いものでした。それに対し、「4.13空襲」は、豊島区域の約三分の二を焼き尽くしたほか、現在の北区・板橋区・文京区・新宿区などにも大きな被害をもたらしました。戦争中豊島区域は全部で10回の空襲を受けましたが、その中でも最大のものでした。

さて、「4.13空襲」が豊島区にどのような影響を与えたのかについては、郷土資料館が編集した『**戦争と豊島区**』、『**豊島の空襲―戦時下の区民生活―**』、『**東京空襲60年～空襲の記憶と記録～**』などの展示図録類に詳しく記されていますのでご参照ください。また、『**4・13根津山小さな追悼会―十周年記念文集―**』（4・13根津山小さな追悼会実行委員会発行、2006年）には、豊島区で「4.13空襲」に遭遇（そうぐう）した方々の生々しい証言が記されています。さらに『**東京大空襲・戦災誌　第2巻**』（東京空襲を記録する会発行、1973年）は、都民の空襲体験記録集となっており、この中には「4.13空襲」の体験記も収められています。一方、『**新版・東京を爆撃せよ―米軍作戦任務報告書は語る―**』（奥住喜重・早乙女勝元共著、三省堂、2007年）では、アメリカ軍司令部が残した「作戦任務報告書」を紹介しつつ、東京空襲の意図と実態が記されています。最後に子ども向けのものでは、『**語り伝える東京大空襲―ビジュアルブック―第4巻**』（東京大空襲・戦災資料センター編、新日本出版社、2011年）がお薦めです。平易な文章と図版や写真を用いてわかりやすく「4.13空襲」のことが記されています。

「東京大空襲」の3月10日、「4.13空襲」の4月13日の両日は、ここで紹介した書籍類をうまく活用して、家庭・学校をはじめ大小さまざまな単位で、戦争の悲惨さと平和の尊さを考える機会にしたいものです。

※4・13根津山（ねつやま）小さな追悼会…現在の豊島区南池袋に位置する根津山付近に多くの空襲犠牲者が埋葬されたということで、平成7年以降、毎年4月13日に南池袋公園を会場に開催されている追悼会のこと

二人の「明治ルネッサンス人」
田口卯吉と根津嘉一郎（初代）

東武鉄道旧浅草（現業平橋）駅に設けられたドック<東武博物館所蔵>

豊島区図書館専門研究員　水谷　千尋

1937年生。東大農業経済学科卒。㈱学研教養図書出版室長、秀潤社社長、豊島区新中央図書館有識者懇談会委員を経て現職。

昨年2月に開催された地域研究ゼミナール「幕末のとしま」の中で水谷千尋氏に「田口卯吉・根津嘉一郎（初代）」を講演していただきました。多数の方より大変興味深かったとの声をいただきましたので、今回は講演内容も含めてもう一度紙面でお送りいたします。

今年五月開業の東京スカイツリーは「下町ルネッサンス」と日に日に内外の観光客・見物客をひき寄せていくに違いない。今日、隅田川岸一帯・浅草はじめ、東京北部・埼玉各地からも望まれ、晴天には上越国境草津白根山から遠望できる、とNHKが伝えていた。

池袋サンシャイン60は、1978年に竣工した。高さは269・6m、開館当初60階展望台から秩父山系、噴煙を吐く浅間山、妙義・榛名・赤城の上州三山、日光男体山、筑波山が展望でき、窓の山岳展望説明銅版から山岳名が確かめられた。今日では正月晴天でも霞んで見えない。

東京スカイツリー（以下「タワー」）の第一展望台は、サンシャイン60のそれより120mほど高いが、上越の山々は霞んで遠望できない。工事関係者の話では、晴天には、筑波山、房総半島と横浜ランドマークタワーが見えるとのことである。

一方、白根山や群馬埼玉一帯から遠望できるのは何故なのか、太陽光の逆光プリズムによるシルエット映像が理由であろう。もう一つ、高さ634mの語呂合わせ「武蔵国」の意味に込められている。タワーの建設・経営主体、東武鉄道・東武タワースカイツリーが、百年を越える武蔵・北関東一円との交通・運輸の深い繋がりから選んだ数字である。タワーには、東京タワーには無かった歴史物語を武蔵・北関東一円に語りかける何かがある。

タワーは、21世紀、地上デジタル化時代のNHK・民放在京6社の電波塔である。世界最先端の鉄骨技術と五重塔心柱の伝統技術を融合、鉄骨構造の反りは日本刀のソリを表し、塔体の塗装色は青みがかった白色で、伝統色藍白（あいじろ）といわれる。夜間照明は、助六の江戸紫と日本古来「粋」な淡い水色を立体演出するとのことである。

タワーの敷地は、東武鉄道伊勢崎線業平橋駅旧貨物ヤード（トック）跡地と押上駅の間である。業平橋駅はかつて浅草駅と呼ばれ、浅草への玄関口であり、貨物ヤードは、江戸時代から隅田川水運に繋がる北十間川に接岸している。東武鉄道が明治～昭和前期、北関東・武蔵一帯の生糸・織物などを貨車で運んで船積みし、横浜港・東京港よりアメリカなどへ輸出し、外貨を稼いだ歴史的な陸運水運の重要結節点である。

隅田川に注ぐ北十間川（左手、水門）と東京スカイツリー

もうひとつの「坂の上の雲」

塔体の白色は、或いは北関東・武蔵野が生み出した〝生糸〟の色ではないのか。幕末・明治から戦前、日本人の近代化・国際化の願望を生糸の輸出に託したシンボル・カラーと解釈できる。

幕末維新横浜開港場で、外国商人に買われる日本の産品は生糸ぐらいしかなかった。良質の生糸を大量にタイミングよく揃え、いかに横浜に運ぶか、明治時代、鉄道関係者たちは苦労した。群馬・栃木、埼玉一帯の生糸・織物の東京・横浜へのルート輸送に向って、鉄道省も東武鉄道も路線を懸命に延長していった。

これには、二人の開明的な先達が大きな役割を果たした。明治期活躍した文明史家・経済学者で、『東京経済雑誌』発行人田口卯吉（うきち）と東武鉄道元社長根津嘉一郎（かねいちろう）（初代）である。ともに豊島区に深い関係がある。田口は、幕末目白台の徒士屋敷に生まれ、巣鴨に在った明治女学校創立校長木村鐙子（とうこ）の弟である。根津は東上鉄道（現東武東上線）初代社長であり、池袋東口グリーン大通り、戦前「根津山」と呼ばれた雑木林の所有者であった。一部の土地は根津育英会から豊島岡女子学園に引き継がれている。根津は江古田にある、今日の武蔵大学の創設など、育英教育家でもあった。

「図書館通信」前号で、粕谷一希顧問は、田口が名著『日本開化小史』で語る歴史観の大きさを説かれたが、田口は明治20年両毛鉄道（現JR両毛線）の創設社長でもあった。北関東の機業地帯を繋ぐ最初の私鉄で、前橋の生糸、桐生の絹織物、足利の銘仙、結城の紬などを東北線・高崎線・山手線を通じて東京・横浜港に鉄路輸送する構想を実現しようとした。

根津は、創立当初経営不振の東武鉄道経営を明治38年に引き受け、東武本線を業平橋・北千住・久喜から館林・足利・伊勢崎や日光などへ結び、人の移動と生糸・織物など産品輸送の「武蔵」交通網を発展させた。

東上鉄道も当初下板橋・川越・秩父一帯の養蚕地域、小川町・寄居から、富岡製糸場近くを通り、高崎・渋川、さらに長岡にいたる延長計画であった。高崎から両毛線で桐生・足利に回り、東武本線に入り、業平橋に一巡する、関東平野馬蹄形シルクロード構想を実現しようとしたともいえる。

これが明治国家の国策ではなく、貿易立国の経済思想家と私鉄経営者の民間人によってなされた。二人の「明治ルネッサンス人」は一世紀後のタワーに何を思い描くであろうか。

（つづく）

あうるすぽっとからのお知らせ

あうるすぽっと講談ライブ『講談のハナシ』

ちょっと、講談でも一席

入場無料

「講談ってなに?」という方はもちろん、落語は聴いたことがあるけど講談はない、敷居が高く難しいイメージがある…そんな方にピッタリの講談ライブです。あまり知られていない“講談”の奥深い世界を、注目の二ツ目講談師、一龍齋貞橘がご案内。講談二席と、トークコーナー「講談のあれこれ」をお楽しみいただきます。この機会にぜひ、あうるすぽっとで“講談”の世界に触れてみませんか?

第1回　2012年2月6日（月）　19:00開演
ゲスト：一龍齋貞寿

第2回　2012年3月5日（月）　19:00開演
ゲスト：宝井琴柑

会　場　あうるすぽっと
入場無料／申込不要／全席自由
※開場は開演の30分前、当日直接ご来場ください。

問合せ　あうるすぽっと　TEL 03-5391-0751

一龍齋貞橘

●講談とは…

起源は戦国時代のお伽衆といわれている、江戸時代に太平記読みで広く知られるようになった日本の伝統話芸の一つです。釈台と張り扇（はりおうぎ）を巧みに使い、歯切れのよい口調と、リズミカルな話芸で「講釈師、見てきたような嘘をつき」と言われるほど、どんな荒唐無稽な話でも嘘いつわりのない本当の出来事のように思わせてしまいます。軍記物や政談など歴史にちなんだものが多く、冬は忠臣蔵、夏は怪談物が多く読まれます。

●ご案内役　一龍齋貞橘（いちりゅうさい ていきつ）

東京都生まれ。平成12年、一龍齋貞水門下、入門。同年7月、日本橋亭にて初高座。平成17年10月、二ツ目昇進。お江戸日本橋亭（中央区日本橋）、講談定席の本牧亭（台東区上野）など都内演芸場に出演。「新鋭講談会」や、毎月開催の「貞橘勉強会」などの活動も著しい注目の若手講談師。講談協会所属。

※詳細は、あうるすぽっとHPをご覧ください。
あうるすぽっと　検索

図書館イベント情報

◆児童・あかちゃんおはなし会

毎週、おはなし会を開催し本の読み聞かせなどイベントを行っています。遊びに来てくださいね。

各図書館の連絡先

□中央図書館　3983-7861　□池袋図書館　3985-7981
□駒込図書館　3940-5751　□目白図書館　3950-7121
□巣鴨図書館　3910-3608　□千早図書館　3955-8361
□上池袋図書館　3940-1779　□雑司が谷図書貸出コーナー　3590-1335

主催／会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	1月	2月	3月
中央図書館 児童コーナー	日曜日 午後2時	最終日曜日 午前11時	★8日・おはなしこうさく会　午後2時	★5日・おはなしこうさく会　午後2時 ★26日・ボランティアによるおはなし会 午後2時　（豊島区親子読書連絡会）	★4日・おはなしこうさく会　午後2時
駒込図書館 （駒込地域文化創造館）	土曜日 午後3時 (2/11はお休み)	—			★2日・子どもえいがかい　午後2時
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時	★11日・ほんのじかん　カルタ大会　午後3時 ★25日・ほんのじかん　こうさくかい 午後3時「節分」	★22日・ほんのじかん　こうさくかい 午後3時「ひなまつり」 ★29日・すがもこどもえいがかい　午後3時 「ゆき・しも・こおり」（16分）	★14日・ほんのじかん　パネルシアター 午後3時 ★28日・ほんのじかん　スライド　午後3時
上池袋図書館 おはなしのへや （※は地下ホール）	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※	★11日・さくらんぼ　カルタ大会　午後3時※ ★25日・さくらんぼえいがかい　午後3時※ 「はらぺこあおむし」（22分） 「トム＆ジェリー　マンハッタン」（8分）		★28日・さくらんぼえいがかい　午後3時※ 「ぼくときどきぶた」（25分） 「ミッキーマウスのゆかいな船長さん」（8分）
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 午後2時	—	★7日・たんぽぽカルタかい　午後2時 ★28日・たんぽぽえいがかい　午後2時 「おうしのフェルナンド」（8分） 「ピーターと狼」　（14分）	★25日・たんぽぽえいがかい　午後2時 「雪渡り」（23分）	★10日・たんぽぽこうさくかい　午後2時 「春の壁飾りをつくろう」（折り紙） ★24日・たんぽぽえいがかい　午後2時 「わらぐつの中の神様」（23分）
目白図書館 地下区民集会室	水曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時	★25日・しんしゅんかるたかい　午後3時	★22日・かきくけこうさくかい　午後3時 「キラキラ　まんげきょう」	★28日・めじろこどもシアター　午後3時 「こぎつねのおくりもの」（30分）
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分	水曜日 午前10時30分			

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

図書館からのお知らせ

豊島区子どもの読書に関する講習会　受講生募集

「紙芝居の魅力を探ろう」

内　容　紙芝居と絵本のちがい、紙芝居の選び方、みんなができる紙芝居の演じ方について、実演指導を交えながらお話していただきます。

講　師　日下部　茂子（くさかべ　しげこ）氏

※童心社編集者として、紙芝居「おおきくおおきくおおきくなあれ」（まついのりこ作・第22回五山賞）、絵本「おかあさんがおかあさんになった日」（長野ヒデ子・サンケイ児童出版文化賞）をはじめ、数多くの紙芝居・絵本・児童書を編集。一方で、紙芝居の創作研究会や「全国紙芝居まつり」の開催、紙芝居文化の会など様々な紙芝居活動にも携わっている。日本各地をはじめベトナムやフランス、上海などの紙芝居講座で講師を務める。
子どもの文化研究所・紙芝居研究会代表委員。紙芝居文化の会企画広報委員。
編著「紙芝居20年の歩み一紙しばい広場総集編」（紙芝居研究会）
共著「紙芝居を演じる」（図書館流通センター）がある。

日　時　平成24年2月3日（金）午前10時30分～12時30分

会　場　あうるすぽっと　会議室B(豊島区東池袋4−5−2　ライズアリーナビル3階)

費　用　無料

募　集　70名

対　象　豊島区内の教育・福祉施設などで読み聞かせボランティアをしている方。
または、子どもたちに向けた読み聞かせに関心のある豊島区民の方。

申し込み　平成24年1月15日（日）午前10時より
中央図書館カウンターまたは電話にて申し込み
（先着順に受講者決定。定員に達し次第締め切り）

保　育　あり（未就学児5名程度。事前申し込みが必要。先着順。）

問い合わせ　豊島区立中央図書館　児童・YAグループ　　電話　03−3983−7861

千早図書館友の会主催「千早進歩自由夢月例会」

※申し込み不要。当日、直接会場にお越しください。

◆千早進歩自由夢（1月例会）
講演会「ハングルの世界」

日　時　1月21日(土) 10時から12時(開場:9時30分)
会　場　千早図書館　2階　視聴覚室
講　師　鈴木　昭(千早図書館運営専門員)
講演内容　最近、非常に韓国に対する関心が高まっていますが、韓国の言語や文字に関しては、まだまだ知られていない点が多いように思えます。
今回の講演では、韓国語とはどういう言語なのか、韓国で用いられているハングルはどういう文字なのかを分かりやすく概説いたします。難しい専門的な言語学の話ではなく、韓国語の入門講座というわけでもありませんので、韓国語に関心をお持ちの方は、お気軽にご参加いただければと思います。
講師略歴　一橋大学大学院言語社会研究科修士課程修了。
研究対象は「日本語母語話者に対する韓国語教授法」。韓国語講師・韓国語翻訳歴14年。

◆千早進歩自由夢（2月例会）
三遊亭窓輝師匠「落語会」

日　時　2月18日(土) 10時から12時(開場:9時30分)
会　場　千早図書館　2階　視聴覚室
出　演　三遊亭窓輝師匠
口演内容　演題等は当日のお楽しみです。毎年恒例の「落語会」、今年は豊島区千早出身である三遊亭窓輝師匠の登場です。
2年前に真打に昇進されて、ますます磨きがかかった窓輝師匠の熱演をお楽しみください。
出演者略歴　1970年　豊島区千早生まれ
1995年　六代目三遊亭圓窓に入門
1999年　二ツ目昇進
2010年　真打昇進

◆千早進歩自由夢（3月例会）
朗読会「そよ風ときには…」

日　時　3月17日(土)　10時から12時30分
（開場:9時30分）
会　場　千早図書館　2階　視聴覚室
朗　読　はなしのぶの会（音楽　室橋佐保里）
内　容　長い人生にはそよ風ばかりではなく、むしろ冷たい風やつらい風の方が多いですね。しかし、どんな時でも、俳優・池部良の家族は、愛と叡智で乗り越えていきました。そこで、今回は「池部良のエッセイ」をとりあげることにしました。ユニークなエピソードを聞きながら、やすらぎのひとときをお過ごしいただければ幸いです。
朗読の他に、池部良の作品の解説や、池部良に関するDVDの上映もあります。

編集後記

2012年がスタートしました。本年もよろしくお願い致します。筆者は毎年、新年の目標を立てることにしています。今年は、ウクレレを上手に弾けるようになるという目標を立てました。たいがい、三日坊主ならぬ一週間坊主くらいで挫折してしまうので、今年こそがんばって目標を達成したいと思います。
5月には、東京で173年ぶりに金環食が見られるそうです。今から173年前の1839年、当時の人たちはどのような思いで金環食を眺めたのでしょうか。（恩）

図書館カレンダー

○は土日祝　■は休館日

中央図書館
開館時間
平　日 午前10時～午後10時
土日祝 午前10時～午後 6 時

駒込・巣鴨・上池袋・池袋・目白・千早図書館
開館時間
平　日 午前9時～午後7時
土日祝 午前9時～午後5時

雑司が谷図書貸出コーナー
開館時間
平　日 午前10時～午後7時
土日祝 午前10時～午後5時

	日	月	火	水	木	金	土
1月	①	■②	■③	■④	5	6	⑦
	⑧	■⑨	10	11	12	13	⑭
	⑮	16	17	18	19	20	㉑
	㉒	23	24	25	26	■㉗	㉘
	㉙	30	31				
2月				1	2	3	④
	⑤	6	7	8	9	10	⑪
	⑫	■⑬	14	15	16	17	⑱
	⑲	20	21	22	23	■㉔	㉕
	㉖	27	28	29			
3月					1	2	③
	④	5	6	7	8	9	⑩
	⑪	■⑫	13	14	15	16	⑰
	⑱	19	⑳	21	22	■㉓	㉔
	㉕	26	27	28	29	30	㉛

	日	月	火	水	木	金	土
1月	①	■②	■③	■④	5	6	⑦
	⑧	⑨	■10	11	12	13	⑭
	⑮	■16	17	18	19	20	㉑
	㉒	■㉓	24	25	26	■㉗	㉘
	㉙	■㉚	31				
2月			1	2	3	④	
	⑤	■⑥	7	8	9	10	⑪
	⑫	■⑬	14	15	16	17	⑱
	⑲	■⑳	21	22	23	■㉔	㉕
	㉖	■㉗	28	29			
3月				1	2	③	
	④	■⑤	6	7	8	9	⑩
	⑪	■⑫	13	14	15	16	⑰
	⑱	■⑲	⑳	21	22	■㉓	㉔
	㉕	■㉖	27	28	29	30	㉛

	日	月	火	水	木	金	土
1月	①	■②	■③	■④	5	6	⑦
	⑧	■⑨	10	11	12	13	⑭
	⑮	16	17	18	19	20	㉑
	㉒	23	24	25	26	■㉗	㉘
	㉙	■㉚	31				
2月				1	2	3	④
	⑤	6	7	8	9	10	⑪
	⑫	■⑬	14	15	16	17	⑱
	⑲	20	21	22	23	■㉔	㉕
	㉖	■㉗	28	29			
3月					1	2	③
	④	5	6	7	8	9	⑩
	⑪	■⑫	13	14	15	16	⑰
	⑱	19	⑳	21	22	■㉓	㉔
	㉕	■㉖	27	28	29	30	㉛